

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100222
法人名	社会福祉法人ひかりの里
事業所名	めだかの学校千塚公園西
所在地	甲府市千塚3丁目9-31
自己評価作成日	令和 4年 10月 2日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4年 10月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の中にあり昼夜問わず静かな環境にあり過ごしやすく、通学路に面している為、小、中学生が登下校しており、近所には農作業を行っている住民の姿がある。徒歩5分程の場所に公園があり散歩しやすく大きい公園なので、近所の人たちが散歩し、子供が遊んでいることがおおくあります。ホームの敷地に畑と庭があり、コロナウイルスで外出の機会が減っているが、庭にて季節の行事をし、畑では季節の野菜を利用者様と植えている。利用者様のご家族に毎月ホームで行った行事やホームでの生活の様子を写真で撮り、千塚ふれあいだよりとしてご家族様に郵送をしている。散歩を行っている近所の方たちが挨拶をしてくださったり、家の花壇を見せてくださり、地域住民との交流を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームめだかの学校千塚公園西の理念に基づき、利用者の出来ないことに視点を当てるのではなく、したい事を支援出来るよう管理者及び全職員は努めています。利用者の状況を把握するために、家族等から情報を出来る限り提供して頂いたり、センター方式を活用しています。利用者一人ひとりにきちんと向かい合い、関わりの経験から理解するよう職員会等で共有しています。利用者の一番近くにいる職員を育てることが利用者への向き合い方を学ぶ一つとして、研修の受講の機会を多く持ち、研修受講後は、感想及びこの研修を現場でどのように活用したいか等、次の目標を設定しています。また全職員が、自己評価を実施し、地域密着型サービスの理解を行い、運営推進会議はモニタリングの場となっています。事業所は、地域住民との関わりにも積極的に取り組み、管理者及び職員は、理念の具現化に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活ができるように、全職員が理念を念頭におき実施をしている。また毎朝朝礼、月1回の職員会議を実施し、職員に周知徹底をし、地域に開かれた施設づくりを全員で取り組んでいる。	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活ができるように、全職員が理念を念頭におき実施をしている。また毎朝朝礼、月1回の職員会議を実施し、職員に周知徹底をし、地域に開かれた施設づくりを全員で取り組んでいる。	・・・尊厳を大切にし、その人らしく・・・の理念に基づき、朝礼時や毎月の職員会において、地域の中のグループホームであることを徹底している。玄関に理念を掲示、近所の人達との挨拶等、日々の実践の中で取り組むよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板や地域住民、自治会長からの話を伺い行事の情報を頂いている。地域のお店を利用して社会資源活用を行っている。また、小学生の通学路となっているので、あいさつを交えている。	自治会に加入し、回覧板や地域住民、自治会長からの話を伺い行事の情報を頂いている。地域のお店を利用して社会資源活用を行っている。また、小学生の通学路となっているので、あいさつを交えている。	小学校の生徒の来所や近くの公園での交流、野菜等のお裾分け、近所の家の花壇を見せてもらうなど、日常的に地域とお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への積極的な参加や幼稚園の訪問により認知症の方との関わりの中で理解を求めている。運営推進会議の場では地域の方にも参加して頂き、認知症の方に対する理解を深めて頂いている。	地域行事への積極的な参加や幼稚園の訪問により認知症の方との関わりの中で理解を求めている。運営推進会議の場では地域の方にも参加して頂き、認知症の方に対する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や実施行事の報告、外部評価結果報告や災害時の対応、ヒヤリハット事例などを課題としてあげ、意見を頂いている。ご家族様にも積極的に意見を言っていたりできるようにご家族に案内を送付し、会議への参加をお願いしている。また開催できない時には書面開催を行っている。	利用者の現状や実施行事の報告、外部評価結果報告や災害時の対応、ヒヤリハット事例などを課題としてあげ、意見を頂いている。ご家族様にも積極的に意見を言っていたりできるようにご家族に案内を送付し、会議への参加をお願いしている。また開催できない時には書面開催を行っている。	自治会の代表や地域住民、行政等の委員で構成され、事業所の現状や外部評価結果、ヒヤリハット等を報告し、共に取り組んでいる。出された意見等は、職員に伝え、職員会等でも話し合いを行っている。外部評価は、運営推進会議でも議題として取り上げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターには運営推進会議に出席して頂き意見やアドバイス、情報提供をして頂いている。介護相談員についても定期的に訪問して下さっている。	地域包括支援センターには運営推進会議に出席して頂き意見やアドバイス、情報提供をして頂いている。介護相談員についても定期的に訪問して下さっている。	認定更新時には利用者の様子等伝えたり、介護相談員の派遣を活用し、利用者から聞き取った意見等を報告され職員会で話し合うなど、市の担当者と協力関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束対策委員会を開催、内部研修などで全職員が身体拘束についての正しく理解をし、どういった行為が身体拘束にあたるか職員に対し徹底をしている。参考資料や情報なども随時回収し、全職員に身体拘束の意識付けをしている。	3ヶ月に1回身体拘束対策委員会を開催、内部研修などで全職員が身体拘束についての正しく理解をし、どういった行為が身体拘束にあたるか職員に対し徹底をしている。参考資料や情報なども随時回収し、全職員に身体拘束の意識付けをしている。	事業所の固有リスクを把握し、高齢者虐待廃止委員会、身体拘束委員会等を3ヶ月に1回開催し、家族の要望や同意で、身体拘束を正当化してはいないかなど、気づきをもつ事の出来る研修や事例検討を行い、身体拘束等の適正化に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回高齢者虐待防止検討委員会を開催し、利用者の尊厳を大切にし、身体的虐待はもちろんのこと、職員がお互いに不適切なケアを指摘し合え、助け合える関係作りに励み、言葉の暴力やネグレクト、グレーゾーンについても注意をするように職員に周知し、職員同士虐待を行わない為連絡体制を徹底している。	3ヶ月に1回高齢者虐待防止検討委員会を開催し、利用者の尊厳を大切にし、身体的虐待はもちろんのこと、職員がお互いに不適切なケアを指摘し合え、助け合える関係作りに励み、言葉の暴力やネグレクト、グレーゾーンについても注意をするように職員に周知し、職員同士虐待を行わない為連絡体制を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している方もおり、今後はより深く日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めていく。	現在成年後見制度を利用している方もおり、今後はより深く日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書をもとに苦情解決窓口の説明や金銭管理、その他の必要事項を利用者、家族に出来る限り分かりやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不安な点について必ず確認を行っている。	契約書、重要事項説明書をもとに苦情解決窓口の説明や金銭管理、その他の必要事項を利用者、家族に出来る限り分かりやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不安な点について必ず確認を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や面会時の会話、ご家族様との電話のやり取り、介護相談員からの情報などを利用し、利用者やご家族様ができるだけ意見や要望などを言いやすい環境作りを心がけ、また要望があった際には迅速に反映ができるように努力をしている。玄関に意見箱の設置を行っている。	運営推進会議の場や面会時の会話、ご家族様との電話のやり取り、介護相談員からの情報などを利用し、利用者やご家族様ができるだけ意見や要望などを言いやすい環境作りを心がけ、また要望があった際には迅速に反映ができるように努力をしている。玄関に意見箱の設置を行っている。	介護相談員の派遣を活用し、利用者からの要望・意見等聞いている。お酒を飲みたいなどの要望もあり、家族等に相談している。玄関設置の意見箱への投函はないけれど、面会時、家族等に意見を聴くなどし、出された意見等は職員会で話し合い、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議、各委員会や業務の中で行事の実施等要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境づくりに努めている。	職員会議やユニット会議、各委員会や業務の中で行事の実施等要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境づくりに努めている。	利用者の状況や勤務時間体制など、利用者の一歩近くにいる職員からの意見等は各委員会等で出され、さらに職員会で検討している。また職員の目標管理を行い、職員面接等で意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の休日や勤務時間の希望などを考慮し勤務表の作成を行っている。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。職員が働きやすい環境づくりにも管理者はじめ各職員で取り組んでいる。	各職員の休日や勤務時間の希望などを考慮し勤務表の作成を行っている。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。職員が働きやすい環境づくりにも管理者はじめ各職員で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では月1回の職員研修と年6回の内部研修を開催しており、事業所でも勉強会を実施し、技術や知識が習得できるよう機会を設けています。また外部での研修に参加して勉強会にて発表をしている。現在介護福祉士の資格取得を目指している職員もいる。	法人では月1回の職員研修と年6回の内部研修を開催しており、事業所でも勉強会を実施し、技術や知識が習得できるよう機会を設けています。また外部での研修に参加して勉強会にて発表をしている。現在介護福祉士の資格取得を目指している職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れ等を行い相互に質の向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供も頂いている。	実習生の受け入れ等を行い相互に質の向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供も頂いている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に努めている。ご家族様にも協力してもらい過去の習慣等の情報を教えて頂き、個別対応し、生活の中で見えてくる隠れたニーズも見逃さないようにしている。	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に努めている。ご家族様にも協力してもらい過去の習慣等の情報を教えて頂き、個別対応し、生活の中で見えてくる隠れたニーズも見逃さないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き介護に反映している。入所後も面会や来訪の際などに関りを持ち、月に1度の事業所便りや近状報告を兼ねた直筆の手紙を郵送している。	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き介護に反映している。入所後も面会や来訪の際などに関りを持ち、月に1度の事業所便りや近状報告を兼ねた直筆の手紙を郵送している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には本人とご家族様の主訴は何かを見極め、本人がどういった生活を送りたいか、ご家族様がどういった生活を送ってほしいかを聞き、要望や思いに沿えるよう努めている。法人内外問わず、その方に合ったサービス提供ができるように他事業所のサービスも紹介している。	サービス開始時には本人とご家族様の主訴は何かを見極め、本人がどういった生活を送りたいか、ご家族様がどういった生活を送ってほしいかを聞き、要望や思いに沿えるよう努めている。法人内外問わず、その方に合ったサービス提供ができるように他事業所のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事活動や軽作業は積極的に行ってもらっている。料理や盛り付け、片付け、洗濯、掃除まで出来る範囲で行ってもらい、家庭での生活で欠かせないことを当たり前できるように支援している。	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事活動や軽作業は積極的に行ってもらっている。料理や盛り付け、片付け、洗濯、掃除まで出来る範囲で行ってもらい、家庭での生活で欠かせないことを当たり前できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の安定した生活はご家族様の支えや協力を得なければ実現しないという事をご家族様に伝え面会や行事への参加、運営推進会議への出席等、関りを多く持ち協力を依頼している。施設の美化作業も協力して頂いている。	利用者の安定した生活はご家族様の支えや協力を得なければ実現しないという事をご家族様に伝え面会や行事への参加、運営推進会議への出席等、関りを多く持ち協力を依頼している。施設の美化作業も協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から通っていた病院などの利用を依頼したり、家のことが心配な方はご家族様の了承得て、職員と一緒に自宅の様子を見に行ったり馴染みの場所等関係が寸断されないように個別で支援している。また昔からの友人や知人と電話で話され、関係性の継続を支援している。	以前から通っていた病院などの利用を依頼したり、家のことが心配な方はご家族様の了承得て、職員と一緒に自宅の様子を見に行ったり馴染みの場所等関係が寸断されないように個別で支援している。また昔からの友人や知人と電話で話され、関係性の継続を支援している。	利用者一人ひとりを支えてくれる関係性をどう把握していったら・・・と、家族等から情報を提供してもらい、ケース記録に記載し、センター方式を活用して支援に努めている。グループホームへのお友達の来訪や電話でのやり取りなど、個別の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が互いに支え合えるような支援に努めている	日常生活や行事を通じて利用者同士の会話が增えるよう職員がパイプ役となって支援している。フロアや居室で利用者同士が会話ができる環境整備を行っている。自室で過ごすことの多い利用者様には無理のない範囲で声掛けや誘導を行い、孤立しないように支援している。	日常生活や行事を通じて利用者同士の会話が增えるよう職員がパイプ役となって支援している。フロアや居室で利用者同士が会話ができる環境整備を行っている。自室で過ごすことの多い利用者様には無理のない範囲で声掛けや誘導を行い、孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により契約解除となった場合でも、希望があれば退院後の行先を一緒に探し、利用者、家族が困らないように支援をしている。またいかなる場合の退所であっても随時相談を受けている事を退所時に必ず伝えている。退所後も再入所の希望があれば対応を行っている。	長期入院により契約解除となった場合でも、希望があれば退院後の行先を一緒に探し、利用者、家族が困らないように支援をしている。またいかなる場合の退所であっても随時相談を受けている事を退所時に必ず伝えている。退所後も再入所の希望があれば対応を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族にどのような生活を送りたいか希望を聞き、生活歴やバックグラウンドの把握、今現在本人の思いや意志を出来る限り汲みとる事が出来るよう関りをもっている。何事にも利用者本位の考えで支援をしている。	本人と家族にどのような生活を送りたいか希望を聞き、生活歴やバックグラウンドの把握、今現在本人の思いや意志を出来る限り汲みとる事が出来るよう関りをもっている。何事にも利用者本位の考えで支援をしている。	日々の生活の中で、私は「こうしたい」などの意向を聴いている。コミュニケーションの取りにくい利用者には、言葉にできない時の顔つきや、何があっても不機嫌になったのか、どんな時に嬉しい表情になったのかなど記録にし、申し送りノートを活用し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族様から生活歴を聞き、生活の中で見えてくるその人の特徴やその人らしい生活の仕方等の把握に努め、職員間で共有できるように会議等で周知している。またこれまで利用していたサービス事業所から情報を頂く事もある。	入所前にご家族様から生活歴を聞き、生活の中で見えてくるその人の特徴やその人らしい生活の仕方等の把握に努め、職員間で共有できるように会議等で周知している。またこれまで利用していたサービス事業所から情報を頂く事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリを兼ねて家事活動を中心に利用者と共にっており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に努めている。また継続して行う事でその日の状態や出来ること、出来ない事の把握ができ、都度職員間で情報を共有している。できる限りしてあげる介護ではなく待つ介護を心がけている。	生活リハビリを兼ねて家事活動を中心に利用者と共にしており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に努めている。また継続して行う事でその日の状態や出来ること、出来ない事の把握ができ、都度職員間で情報を共有している。できる限りしてあげる介護ではなく待つ介護を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に本人、ご家族様に希望を聞きプランに反映させている。処遇会議でも個々に話し合いを行っている。また処遇会議以外でも日々気付いたことは各ユニットで話し合いを行い、計画に反映できるように努めている。	計画作成時に本人、ご家族様に希望を聞きプランに反映させている。処遇会議でも個々に話し合いを行っている。また処遇会議以外でも日々気付いたことは各ユニットで話し合いを行い、計画に反映できるように努めている。	日々のモニタリングを重視し、出来ることや〇〇したい、という意見を把握している。月1回開催の処遇会議において利用者一人ひとりの計画を見直し、その人らしく生活できる計画をなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報共有をできるように工夫している。処遇会議での内容を含め、現場からの声を大切にし、その人にとって最善の方法や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報共有をできるように工夫している。処遇会議での内容を含め、現場からの声を大切にし、その人にとって最善の方法や介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に抱えているニーズが異なる為、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスを行っている。受診介助の代行や個別の買い物等、その時々生じる個別のニーズに対応している。時間に捉われずその人のペースで離床や食事ができるように支援し、食事の嗜好品についてもできる範囲でニーズに答えられるようにしている。	個別に抱えているニーズが異なる為、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスを行っている。受診介助の代行や個別の買い物等、その時々生じる個別のニーズに対応している。時間に捉われずその人のペースで離床や食事ができるように支援し、食事の嗜好品についてもできる範囲でニーズに答えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別の地域資源を把握し、入所する事により地域との繋がりが寸断されず、継続ができるように支援をしている。ご家族様の同意を得て自宅の近所付き合いや馴染みの店等できる範囲で訪れたり、なるべく面会を行えるように支援をしている。	個別の地域資源を把握し、入所する事により地域との繋がりが寸断されず、継続ができるように支援をしている。ご家族様の同意を得て自宅の近所付き合いや馴染みの店等できる範囲で訪れたり、なるべく面会を行えるように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人、ご家族様に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望を聞いている。法人内にもクリニックがあることを伝え希望があった方については主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。また希望により主治医の往診を受けている。	入所時にご本人、ご家族様に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望を聞いている。法人内にもクリニックがあることを伝え希望があった方については主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。また希望により主治医の往診を受けている。	本人の意向を重視し、馴染みの医療機関の受診となっている。通院の支援は、家族等又は職員対応であり、受診後は電話等で状況を伝えている。口腔ケアについては、月1回又は随時受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員には利用者のちょっとした変化に気付ける様日常の関わりの中から利用者を観察するよう指導している。気付いた点は随時管理者、看護師に報告、相談をし受診が必要な場合には適切に医療が受けられるように支援をし、受診が困難な場合は医師、家族に相談し往診対応ができるように支援をしている。	職員には利用者のちょっとした変化に気付ける様日常の関わりの中から利用者を観察するよう指導している。気付いた点は随時管理者、看護師に報告、相談をし受診が必要な場合には適切に医療が受けられるように支援をし、受診が困難な場合は医師、家族に相談し往診対応ができるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は情報提供を病院に行い入院中は病院、ご家族様と連携をとり合い、退院時にもスムーズに退院できるように努めている。また退院時には医療面だけではなく必要に応じてPTやOT、管理栄養士や地域連携室等からも情報を頂き、担当者会議も行うようにしている。	利用者が入院した際は情報提供を病院に行い入院中は病院、ご家族様と連携をとり合い、退院時にもスムーズに退院できるように努めている。また退院時には医療面だけではなく必要に応じてPTやOT、管理栄養士や地域連携室等からも情報を頂き、担当者会議も行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族様や本人の意思を聞くとともに、法人内の特養や療養型とも連携をとっている事を説明し、広い選択肢の中から方向性を決めてもらえるようにしている。看取りについても希望があればグループホームで可能な限り対応は可能。利用者、家族、主治医、訪問看護、職員間での連携をとっている。施設に於いての看取り事例はこれまで7事例あり、現在看取りを希望されている方は5名である。	入所時にご家族様や本人の意思を聞くとともに、法人内の特養や療養型とも連携をとっている事を説明し、広い選択肢の中から方向性を決めてもらえるようにしている。看取りについても希望があればグループホームで可能な限り対応は可能。利用者、家族、主治医、訪問看護、職員間での連携をとっている。施設に於いての看取り事例はこれまで7事例あり、現在看取りを希望されている方は5名である。	終末期に伴う意思確認の計画書を作成し、事業所が対応できる最大のケアについて家族等に説明を行っている。職員には、重度化や終末期に向けての研修を行い、家族や医師、職員等関係機関との連携を図りながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、救急法と年間2回の研修を実施し各職員のスキルアップに努めている。会議でも緊急時の事例や事故発生時の対処方法を徹底している。事故を未然に防ぐ為にヒヤリ・ハット記入を行い委員会で話し合い、職員全員に周知徹底をしている。	緊急時の対応、救急法と年間2回の研修を実施し各職員のスキルアップに努めている。会議でも緊急時の事例や事故発生時の対処方法を徹底している。事故を未然に防ぐ為にヒヤリ・ハット記入を行い委員会で話し合い、職員全員に周知徹底をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、夜間想定、地震、火災、水害等の訓練を行っている。地域の避難訓練にも参加し、万が一の時は地域の方にも災害時の協力要請をお願いしている。防災研修や水消火器を使った訓練等も実施している。福祉避難所としても登録している。	定期的に避難訓練を実施し、夜間想定、地震、火災、水害等の訓練を行っている。地域の避難訓練にも参加し、万が一の時は地域の方にも災害時の協力要請をお願いしている。防災研修や水消火器を使った訓練等も実施している。福祉避難所としても登録している。	利用者、運営推進会議のメンバー、地域の人達との協力を得ながら、訓練を行っている。近所の連絡網を作成している。事業所は福祉避難所として登録している。訓練後は、実施して気になる事等の課題を挙げ、次にどう活かすかを関係者で話し合っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が人生の先輩であるという気持ちで、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。業務の中でOJTや研修、身体拘束対策委員会、虐待防止対策委員会、会議でも声掛けや接し方等の指導を職員に対して行い、職員同士が注意し合う関係性を築いている。	利用者が人生の先輩であるという気持ちで、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。業務の中でOJTや研修、身体拘束対策委員会、虐待防止対策委員会、会議でも声掛けや接し方等の指導を職員に対して行い、職員同士が注意し合う関係性を築いている。	虐待防止委員会等の研修にて徹底し、日々のケアの中で、利用者の呼び方や接し方など丁寧に言うよう努めている。リハビリグッズやパット等は部屋に置き、見えないように布で覆うなど配慮している。その人らしい尊厳ある姿を大切にすることを大切にしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の気持ちを大切に利用者が遠慮せず話せる雰囲気作りを努め、希望を聞く際は人によって質問方法や声掛けを工夫している。生活の中での選択時には自己決定できるよう、してあげる介護から待つ介護を心がけている。	個人の気持ちを大切に利用者が遠慮せず話せる雰囲気作りを努め、希望を聞く際は人によって質問方法や声掛けを工夫している。生活の中での選択時には自己決定できるよう、してあげる介護から待つ介護を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	介護するにあたり、まずその人の事をよく知り、よく見ることが心がけている。その中で昔から馴染みのある事や生活のリズムを個々に把握し処遇を行っている。行事の実施も利用者に希望を聞きながら内容を検討し、実施している。	介護するにあたり、まずその人の事をよく知り、よく見ることが心がけている。その中で昔から馴染みのある事や生活のリズムを個々に把握し処遇を行っている。行事の実施も利用者希望に希望を聞きながら内容を検討し、実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら行事の際や外出の際にお化粧をさせて頂いている。あくまでも本人自身のおしゃれが出来るように支援している。日々の身だしなみについても衣類の選択等できる範囲で本人に行ってもらい、自立支援に努めている。	本人の希望を聞きながら行事の際や外出の際にお化粧をさせて頂いている。あくまでも本人自身のおしゃれが出来るように支援している。日々の身だしなみについても衣類の選択等できる範囲で本人に行ってもらい、自立支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて食事の準備や片付け等は職員と一緒にしている。ほうとうや太巻き作り、団子やおはぎ作り等季節感のある昔ながらの料理やおやつも一緒に手作りしている。自由メニューやスイーツバイキング、寿司パーティーなどを希望を聞きながら実施している。	利用者の能力に応じて食事の準備や片付け等は職員と一緒にしている。ほうとうや太巻き作り、団子やおはぎ作り等季節感のある昔ながらの料理やおやつも一緒に手作りしている。自由メニューやスイーツバイキング、寿司パーティーなどを希望を聞きながら実施している。	利用者は、職員と共に食事の準備や片付け等行っている。週1回は自由メニューの日があり、畑で収穫した野菜などが食卓に並んでいる。時々、利用者と一緒に買い物に行っている。職員も一緒に食卓を囲み、彩りよく盛り付けられた温かい食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事、おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックもしており、バランスよく栄養が摂れるように努めている。また体重の増減も指標の一つにしており、嗜好品の提供等その時々に応じた支援を行っている。	個々の状態に合わせた食事、おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックもしており、バランスよく栄養が摂れるように努めている。また体重の増減も指標の一つにしており、嗜好品の提供等その時々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず実施し、個別に介助する方や自身でできる方の把握、義歯や口腔内の状態を個別に把握している。週1回程度の歯科訪問診療時に歯科医師や歯科衛生士より歯磨きのアドバイスを受けたり、個々に合った歯ブラシの選択、拭き上げ等清潔保持できるよう支援をしている。	食後の口腔ケアは必ず実施し、個別に介助する方や自身でできる方の把握、義歯や口腔内の状態を個別に把握している。週1回程度の歯科訪問診療時に歯科医師や歯科衛生士より歯磨きのアドバイスを受けたり、個々に合った歯ブラシの選択、拭き上げ等清潔保持できるよう支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、排泄チェックシートを用いて個別に声掛け、できるだけトイレで排泄が行えるよう誘導を行っている。オムツやパットの使用も見直しを行いその人にとって自立が目指せるように支援している。オムツを使用せずに布パンツを使用している方もいる。	個別の排泄パターンを把握し、排泄チェックシートを用いて個別に声掛け、できるだけトイレで排泄が行えるよう誘導を行っている。オムツやパットの使用も見直しを行いその人にとって自立が目指せるように支援している。オムツを使用せずに布パンツを使用している方もいる。	排泄チェックシートを活用し、個別の排泄パターンを把握し、行きたい時にトイレに行く生活リズムを支援している。失敗した時、利用者の表情が曇っている時など、不安にならないよう支援している。一人ひとりについて、ユニット会議や職員会で常に見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄に関してはチェックシートを用いて個別チェックし、その方の排便リズムの把握やトイレで排泄ができるように支援を行っている。できる範囲で下剤に頼るのではなく、水分摂取や運動、乳製品の活用等の対応を行っている。	排泄に関してはチェックシートを用いて個別チェックし、その方の排便リズムの把握やトイレで排泄ができるように支援を行っている。できる範囲で下剤に頼るのではなく、水分摂取や運動、乳製品の活用等の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	入浴はできる範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。個浴にて一番風呂が良い方や最後にゆっくり入りたい方、熱め、ぬるめが好きなど個々の希望に応じた個別の支援を実施している。週2、3回は入浴して頂けるように実施している。	入浴はできる範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。個浴にて一番風呂が良い方や最後にゆっくり入りたい方、熱め、ぬるめが好きなど個々の希望に応じた個別の支援を実施している。週2、3回は入浴して頂けるように実施している。	出来るだけ利用者の希望を聞き、入浴してもらっている。入浴を嫌がる利用者は、無理せず声掛け等で対応している。夕方入りたい人、自分好みのシャンプーを使いたい人などの対応も行っている。ゆず湯やバラ湯など季節感を味わいながらゆっくり楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動量を増やし夜間の睡眠に繋げられるように努めている。また体調や状態に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。居室の空間もご本人が安心できるように家族写真や馴染みの家具などを配置する等の工夫を行っている。	日中はできるだけ活動量を増やし夜間の睡眠に繋げられるように努めている。また体調や状態に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。居室の空間もご本人が安心できるように家族写真や馴染みの家具などを配置する等の工夫を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録に内服薬の情報書が綴っており、副作用や用法、用量等をすぐに確認できるようにしている。また受診の際には内服薬による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記載し職員全体で情報共有し把握に努めている。	個別の記録に内服薬の情報書が綴っており、副作用や用法、用量等をすぐに確認できるようにしている。また受診の際には内服薬による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記載し職員全体で情報共有し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や生活歴などを把握し、料理や畑仕事、習字、編み物等その人にとって楽しみとなっていることが日常生活の中で自然にできるように支援している。また日常生活の中で気分転換としても活用している。	その人の趣味や生活歴などを把握し、料理や畑仕事、習字、編み物等その人にとって楽しみとなっていることが日常生活の中で自然にできるように支援している。また日常生活の中で気分転換としても活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物や住んでいた地域等、家族の協力を頂き支援を行っている。ご家族様との外出も希望される場合は柔軟に対応している。また近くの公園への散歩を行っている。施設内の庭に於いて行事や散歩もやっている。	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物や住んでいた地域等、家族の協力を頂き支援を行っている。ご家族様との外出も希望される場合は柔軟に対応している。また近くの公園への散歩を行っている。施設内の庭に於いて行事や散歩もやっている。	昔働いていた職場を見たい、あんみつを食べたいなど、家族等と相談しながら一人ひとりの外出支援を行っている。庭にて夕涼みや夏祭り、おでん会などを行い、歩行困難の利用者には、車いす対応で参加している。寒い日は、暖かい時間に散歩したり日向ぼっこをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もおり、所持している事でその方の安心感と自信に繋がっている事例もある。自己管理ができない方は施設においてお小遣いの管理を行っている。	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もおり、所持している事でその方の安心感と自信に繋がっている事例もある。自己管理ができない方は施設においてお小遣いの管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては利用者の家族や友人に対して希望があった場合支援をしている。手紙も希望があれば月一度本人に聞きながら家族へ手紙を送っている。代筆する方もいるが直筆で書ける方は自身で書いてもらっている。	電話に関しては利用者の家族や友人に対して希望があった場合支援をしている。手紙も希望があれば月一度本人に聞きながら家族へ手紙を送っている。代筆する方もいるが直筆で書ける方は自身で書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品や季節の花等を飾り、季節を感じて居心地が良く、快適に生活ができるように配慮している。また庭や畑を見て季節を感じられるように野菜や花を植え、窓際に椅子を置くなどを行い、いつでも屋外が見えるように配慮している。共用空間では料理の匂いや話し声等が聞こえて、居心地のよい環境に努めている。	利用者の作品や季節の花等を飾り、季節を感じて居心地が良く、快適に生活ができるように配慮している。また庭や畑を見て季節を感じられるように野菜や花を植え、窓際に椅子を置くなどを行い、いつでも屋外が見えるように配慮している。共用空間では料理の匂いや話し声等が聞こえて、居心地のよい環境に努めている。	フロアーは、秋のすすきやハロウィーンの飾り、仲間撮った写真などが飾られている。窓際には椅子を置き、利用者同士が一緒に座り、野菜畑や花などを眺められる空間である。今後、運営推進会議のメンバーや家族等、地域の人達にも、共有の空間作りについて、意見を聞く事を検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや椅子を多めに置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえるように配慮している。1階、2階のフロアをうまく使いながら1人で過ごせる場所や気の合う仲間が家具の配置を行い空間作りを努めている。	フロアにソファや椅子を多めに置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえるように配慮している。1階、2階のフロアをうまく使いながら1人で過ごせる場所や気の合う仲間が家具の配置を行い空間作りを努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みの家具を持参して頂けるようお願いをし、布団や枕、鏡台、仏壇等を持ち込まれている方もいる。また家族の写真を部屋に貼り、その人にとっての居心地の良い空間となりえるように配慮している。	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みの家具を持参して頂けるようお願いをし、布団や枕、鏡台、仏壇等を持ち込まれている方もいる。また家族の写真を部屋に貼り、その人にとっての居心地の良い空間となりえるように配慮している。	居室からは野菜畑や、2階からは富士山も眺められる。職員からの誕生日おめでとうのプレゼントや仏壇、好みのカレンダーが飾られ、居心地よく過ごせる居室となっている。掃除は職員と一緒に、要望があれば部屋づくりも一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内での家事や軽作業はできる範囲で利用者と一緒に、ADLだけに目を向けるのではなく安全を確認した上でその人なりの自立を目指して支援を行っている。	事業所内での家事や軽作業はできる範囲で利用者と一緒に、ADLだけに目を向けるのではなく安全を確認した上でその人なりの自立を目指して支援を行っている。		